

きらめき

学校だより

令和8年度 6月号
京都市立岩倉南小学校
校長 谷村 茂生
Tel 791-3207

第3号

ホームページアドレス <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/iwakuraminami-s>



「対話」 = 「お互いを知る」 = 「やさしさ、思いやり」

校長 谷村 茂生

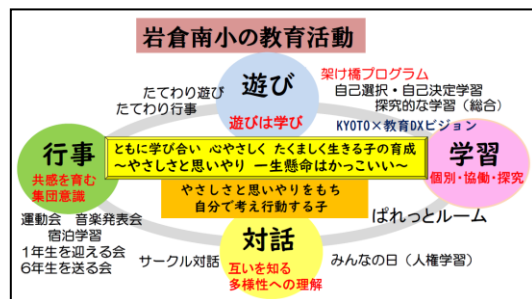
今年度の学校教育活動の核の一つとして「対話」を挙げています。情報や感情を共有する「日常なおしゃべり」である「会話」とちがい、「対話」は、お互いの考えを深く掘り下げます。課題を解決したり、お互いのことを理解したりします。「おしゃべり」は話し手が一方的に話しても、聞き手が適当に聞き取り方を調節していることが多いですが、「対話」では聞き手がしっかりと相手の思いや考えを聞き取ることが大切です。

5月に入り、いろいろな活動が本格的になってきましたが高学年の姿から、「対話」を大切にしている成果が出ているなど感じる姿を目にすることができました。

「いわみなサミット」と呼んでいる児童会の代表委員会の活動や全校の児童を小グループに編成して進めるたてわり活動。どちらも異年齢の子どもたちが集まります。その中で、6年生のリーダーを中心に、高学年の子どもたちが、実にうまく話し合いを進めています。小さい学年の子どもが言った意見が少しずれていたり、実現が難しそうだったり、そんなことはよくあることです。そんな時、リーダーが「それも面白いと思うけど、それは、〜〜だから、できないかも。」「それは無理やな……。でも一度みんなに聞いてみよか。」意見を言った子も、自分の考えを一度は受け入れてもらっている感覚になる、そんな受け答えが、自然にできている様子をいくつものグループで見かけました。

まさに、相手に寄り添う言葉かけです。相手との距離を近づけます。その距離はお互いを理解しやすくします。そこには信頼が生まれます。「やさしさと思いやり」が伝わる言葉かけです。

日頃の学習で意図的、効果的に「対話」を取り入れてきていることが、子どもたちの自然な姿として表れていることがうれしいです。たくさんのお兄さん、お姉さんと活動する小さな学年の子どもたちにも「次も楽しみ!」という笑顔がたくさん見られました。



つながる笑顔、広がる優しさ

13日(水)に「1年生を迎える会」を実施しました。全校児童が笑顔で1年生を迎え、会場いっぱいに優しい雰囲気が広がりました。各学年からの出し物や歓迎の言葉には、1年生を思う気持ちが込められており、自然と温かな拍手が起こっている場面が印象的でした。

また、「たてわり活動」も始まりました。高学年の児童が低学年に優しく声をかけたり、活動の進め方を丁寧に伝えたり、時にはおもしろい話をしたり…。相手の思いを受け止めながら言葉を交わし、次第に心を通わせていきます。初めは緊張していた子どもたちも、対話を重ねる中で少しずつ笑顔が増え、グループごとに仲良く楽しく遊びの計画を立てたり、すごろく遊びをしたりしていました。7月6日には、初開催となる「いわみな夏祭り」を行います。それぞれのグループが準備した遊びで、暑い夏を熱く盛り上げます。今からとても楽しみなイベントです。



「対話による学び」を大切にするためには、人と人とのつながる力が必要です。友達の話に耳を傾け、自分の思いを伝え合う中、相手を思いやる気持ちや安心して過ごすことができる関係性を育てていきたい。互いに認め合い、支え合う姿を増やしたい。そんな願いを込めて、子どもたち一人ひとりが安心して過ごせる学校づくりを目指していきます。